社団法人 宮城県柔道整復師会 No. 87 2010.9

宮整広報 CONTENTS 2010.9.30 №87

平成21年度　第2回通常総会

平成22年3月14日㈰　開催
フォレスト仙台

平成二十二年三月十四日㈰平成二十一年度第二回通常総会がフォレスト仙台を会場に行われました。
　松元浩二理事の司会、進行で中川利光副会長の開会の辞により開会が宣言され、豊嶋良一会長の挨拶として会の目指す公益法人について、四月からの医療改正についての説明、報告がありました。
　次いで生涯学習認定証の交付、ボランティア優良会員の表彰が執り行われ、その後、議長に佐々木裕忠会員、副議長に中島正彦会員、議事録署名人に佐藤敬一会員、齊藤拓幸会員が選出され議事に入りました。「第一号議案、定款改正について」「第二号議案、接骨院ボランティア宮城（SVM）規約一部改正について」「第三号議案、平成二十二年度事業計画案」「第四号議案、平成二十二年度収支予算案」の案件は賛成多数で可決、承認されました。以上、会議は滞りなく進行し木村清徳副会長の閉会の辞で通常総会は終了しました。

広報部

平成二十一年度第二回通常総会は、これから展開していこうとする事業計画や方針、性などを考え、協議決定していく重要な会議です。また例年であれば、これらの活動方針と、それに伴う予算を決めるわけですが、今年の課題はこの他に、規約の改正があります。そして寧ろこちらの方が中心となっていました。

今回の新定款は、社団法人から公益法人へ移行する目的で、規約を整備するための手続きです。その為規約の変更という感覚よりも一新するといったほうが適切です。また社団法人は、一定の目的のために設立された団体組織ですから、地域活動を重視する私達にとっては、本来の活動に即する名称となります。

しかしこの改定に伴う活動方針や、事業計画の変更は特にありません。私達の行ってきた地域密着型活動を、これまでと同じに進めていくことが重要な課題です。

※詳しい規約改正内容については、総会資料をご覧ください。

広報ワーキンググループ

◎◎

文部科学大臣杯争奪

第19回日整全国少年柔道大会予選宮城県大会
平成22年度　宮 城 県 少 年 柔 道 大 会

◎◎

優勝　小学団体の部　八木山柔道愛好会
中学団体の部　大和柔道愛好会A
115チーム　約1000人が集う！

平成二十二年四月二十五日㈰宮城県柔道整復師会主催の少年柔道大会（後援／宮城県教育委員会、宮城県体育協会、宮城県柔道連盟、女川町、女川町教育委員会、女川町体育協会、宮城県柔道少年団、宮城県柔道スポーツ少年団協議会、石巻柔道協会、石巻地区柔道少年団、石巻地区柔道スポーツ少年団協議会、女川町柔道連清海、仙台接骨医療専門学校、赤門鍼灸柔整専門学校、河北新報社、NHK仙台放送局、TBC東北放送、仙台放送、宮城テレビ、KHB東日本放送、三陸河北新報、石巻日日新聞社）が女川町総合体育館にて開催されました。

当日は、宮城県内三十七団体から、小学団体の部（五人制）四十六チーム、中学団体の部（三人制）六十九チーム、約一〇〇〇人が参加しました。

前年度優勝チームの佐藤陸王くん（七ヶ浜柔道スポーツ少年団A）が選手宣誓を行い競技がスタート。各チームとも優勝、全国大会の切符を目指し、応援団の声援を受けながら

熱戦が繰り広げられ、大盛況のうちに幕を閉じました。

この度、小学団体の部で優勝を果たした八木山柔道愛好会Ａチームは、平成二十二年十月十一日（体育の日）講道館において開催される「第十九回日整全国少年柔道大会」へ県代表として出場。日頃の練習の成果を出し切って頑張っていただきたいと思います。

事業部

平成22年度
第1回通常総会

平成22年5月23日㈰　開催
フォレスト仙台

平成二十二年五月二十三日㈰フォレスト仙台を会場に定刻九時三十分より松元浩二理事の司会で、中川利光副会長の開会の辞によって平成二十二年度第一回通常総会が開催されました。

冒頭、豊嶋良一会長より六月から施行される「施術料金改定について」「受療委任の取り扱いについて」など業界に大変重要な報告、説明があり、難題山積のこのご時世を執行部全員一丸となり乗り越えようと力強い挨拶がありました。

議事に入る前に永年功労金の授与、永年在籍者会員の表彰、新入会員の紹介が執り行われました。

その後、議長に佐々木裕忠会員、副議長に中島正彦会員が選出、議事録署名人に小松祐司会員、丹野康浩会員が選ばれ議事へと進み「第一号議案、平成二十一年度事業報告について」「第二号議案、平成二十一年度収支決算報告について」「第三号議案、監査報告について」全て可決承認され、次に評議員の変更についての報告、執行部各担当理事より連絡事項が述べられました。最後に木村清徳副会長の閉会の辞で滞りなく第一回通常総会は閉会しました。

広報部

・永年功労金授与（在籍20年以上75歳超）
大橋　良雄　会員

・永年在籍表彰（30年在籍）
尾立　雅信　会員
木村　清徳　会員
笠間　栄治　会員
久須見和正　会員
齋藤　　孝　会員
亀井　　啓　会員

・永年在籍表彰（20年在籍）
岩佐　和之　会員
佐藤　　隆　会員

宮城県柔道整復師会では、通常総会は年度内に二回開催しています。一回目は年度の初めに前年度の事業報告と決算を中心にし、二回目は年度の終りに次年度の活動方針や事業計画などを審議しています。一般的な総会の形としては、年度内に一回開催して報告、決算、計画、予定それに伴う予算という内容が多いと思います。しかし私達の会では二回の通常総会により、運営や活動が一刻たりとも滞ることが無い様に配慮した故の開催方法であり、それを守り貫くことが、公益法人として当然の責務と考えます。

また、一回目の総会で行われる前年度報告は、計画の達成度や問題点を含めた反省となり、開催年度の事業推進に大きく反映し、更に次年度の案件としての要素が含まれる重要な会議です。

何れにしても二回の総会を通し会の運営や事業が速やかに執行されることが大切です。

広報ワーキンググループ

第4回宮城県「柔道整復学」構築学会

～宮城発、地域に根ざした柔道整復師とは～

平成22年6月20日㈰　於　仙台国際センター　橘・萩会場

746名に及ぶ来場者を記録

第四回宮城県「柔道整復学」構築学会は、六月二十日㈰、仙台国際センター二F橘・萩両会場において開催され、盛会裏のうちに閉会いたしました。

開催に向け、一年に及ぶ長い期間に亘り準備・運営にあたられ、そしてまた当日は多くの来場者の対応に丁寧にあたっていただきました実行委員の皆様方におかれましては、本当にお疲れ様でございました。そして、当会の重要な事業であることを認識してくださり、積極的に学会に出席してくださいました多くの会員の皆様、本当にありがとうございました。

七四六名に及ぶ来場者を記録

県民の二割の方々にしか接骨院・整骨院をご利用していただけていない厳しい現状のもと、こういった学術大会を通じて、多くの県民の方々に柔道整復師についての様々な側面を認識していただくことに重きを置き、「～地域に根ざした柔道整復師とは～」をテーマに、各院にて積極的なポスター、チラシ等によるPR活動をお願いしてまいりましたが、会員皆様の、県民お一人お一人へのお声掛け、姿勢がまさに結集され、過去最高の来場者数を記録することができました。

私達が、誰に頼ることなく、また人任せにするのでもなく、自分達自身の力で現状を切り開いてゆくためには、こういった一致団結が必要不可欠であることは言うまでもありません。

県民の方々は明らかに、この度、他の何者の力によるものでもなく、会員各々の一致団結したPRに呼応してご来場くださったのです。

オープンな場に
研究発表のエントリー数も最多

会員研究発表五題、宮城県「柔道整復学」構築研究委員会中間報告三題、特集「介護と柔道整復師」二題、学生研究発表六題の計十六題という、これまでに最多のエントリー

がありました。
　しかも数だけの観点ではなく、エントリー者に注目してみると、会員発表では、社団会員ではない柔道整復師が学会会員となり、研究発表にエントリーなさいましたし、学生発表についても、過去は仙台の四校のみ参加がパターンのようになっていましたが、今回は盛岡、福島から一校ずつが是非エントリーしたいと積極的なお申込みをいただき、学生発表では初めての六校の参加となりました。こういった現象を考えてみますと、過去ミニ学会も含めてオープンな学会を地道に四度開催し、種を蒔いてきた成果が、芽を出し始めてきたのだと思われます。団体間の枠を超えて集える場、アピールできる場が求められているのではないでしょうか。今、本当の大堂団結に向けた小さな一歩を踏み出せたといっても過言ではないと思います。
　ただ過去最多のエントリー数とはいっても、まだまだ絶対数が少ないのが現状ですから、会員の皆様は躊躇することなく大いにエントリーなさっていただきたいと思います。（エントリーは随時受け付けています）

想定外？＆嬉しい！遭遇

　奇しくも当日、向かいの大ホールでは、第三回の学会でご講演くださいました辨野義己先生が河北新報主催の講演会にいらしておりました。私達の学会が開催されていることを知ると、わざわざ受付にお顔を見せにいらしてくださり、「あの学会を今年も頑張って開催されてるんですね。私も陰ながら柔道整復師を応援しています！」と激励してくださいました。
　地道な継続こそが、こうして良き理解者を一人ずつ得ることに繋がるのだと再認識させられました。
　そして、一致団結こそ私達の最大の「力」となることを再確認いたしまして、開催のご報告とさせていただきます。
　次回は、第二回宮城県「柔道整復学」構築学会第二回ミニ学会が、平成二十三年六月十八日(土)・十九日(日)の両日にわたり開催されます。

宮城県「柔道整復学」構築学会概要

　柔道整復師が国民医療の充実や健康増進に寄与するために、柔道整復術の一般性、法則性、科学性等を研究活動、解析検証しながら、その成果を本学会で発表論議することで、柔道整復学の構成要素、構成様式、さらには体系構造、研究領域を明らかにして、柔道整復学を定義し、国民医療における意味、価値、哲学を確立することにより、さらなる社会貢献を目的とする。

ＳＶＭ活動報告

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

H22. 6. 20(日)　於　仙台国際センター

午前9時00分〜午後4時30分

〜宮城発、地域に根ざした柔道整復師とは〜

タイムテーブル

橘　会場	萩　会場	
9：00　開会式 9：20		
9：25　学会会員研究発表 10：40	9：25　柔道整復師養成校 プレゼンテーション・ 学生研究発表 10：50	医療機器展示
10：45　市・県民健康講座 中原　英臣先生 12：15	10：50　理学療法体験会 〜模擬整・接骨院〜	
12：30　学会総会 （宮城学術認定柔道整復師認定者表彰） 12：55	12：00　市・県民実技講座 救急救命講習会 （定員70名） 15：00	
13：00　宮城県「柔道整復学」 構築研究委員会　中間報告 14：00		
14：05　特集「介護と柔道整復師」		
15：00　市・県民歴史講座 伊達　泰宗氏 16：00		
16：05　閉会式 発表者表彰・講評 16：30		

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

市・県民健康講座

「元気で働くための健康管理」

新渡戸文化短期大学学長
医学博士　**中原　英臣** 先生

市・県民歴史講座

「政宗公の養生訓」

伊達家三十四世
仙台伊達家十八代当主
伊達　泰宗 氏

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

市・県民実技講座

救急救命講習会

主催　社団法人宮城県柔道整復師会
　　　特定非営利活動法人みやぎ災害救援ボランティアセンター
　　　宮城県柔道連盟

講師　◯日本赤十字社宮城県支部　救急法指導員　庄子　和良
　　　◯接骨院ボランティア宮城地域代表

1) 応急手当をする前に
2) 心肺蘇生法
3) AEDの使用法
4) その他、質問など

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会　中間報告

座長

学会名誉副会長　医学博士　**佐藤　　揵**

演題

「①疾患の重症度の評価に関するフィールドワーク」

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会　委員　**庄子　和良**

「②診断法の客観化の問題」

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会　委員　**酒井　賢一**

「③医療人共通言語の問題（用語法）」

宮城県「柔道整復学」構築研究委員会　委員　**新井田一吏**

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

特集 「介護と柔道整復師」

座長

医療法人社団洞口会
指定居宅介護支援事業所　ねむの木　管理者
主任介護支援専門員
柔道整復師　**夏坂　良成**

発表者

演題１

「介護保険事業参入に伴う柔道整復師の知識拡大と習得の必要性についての一考察」

医療法人社団洞口会
老人保健施設　ライフケアセンター名取
通所リハビリテーションスタッフ
柔道整復師　**安達　聡子**

演題２

「柔道整復師からケアマネージャーへ　～柔道整復師の経験を生かして～」

医療法人社団洞口会
指定居宅介護支援事業所　ねむの木
介護支援専門員
柔道整復師　**佐藤　克也**

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

学会会員研究発表

座長　宮城柔整スクール顧問　**柴田仁市郎**

「皮下結合組織断裂損傷・足関節外側捻挫」

社団法人日本柔道整復師会公認私的研究会
岩佐接骨院勉強会　岩佐　和之

「肩関節の整復法の一考察」

藤井　裕文

「重心点位置以上と足底反張力から観る、骨格バランス異常及び姿勢性疾患との因果関係について」

社団法人日本柔道整復師会公認私的研究会
現代臨床療法研究会
代　表　中川　利光
発表者　中川　裕章

「Kocher法が肩関節可動域に及ぼす影響」

嶋田　　総

「母指CM関節亜脱臼を呈した症例」
—母指CM関節に対しての固定・治療の一考察—

社団法人日本柔道整復師会公認私的研究会
達磨会　発表者　若井　　晃

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

柔道整復師養成校　学生研究発表

座長　宮城柔整スクール副校長　**亀井　　啓**

「前腕回内、回外運動の可動域について」
仙台接骨医療専門学校

「手の舟状骨骨折を経験して」
赤門鍼灸柔整専門学校

「周回走行における左回りに関する研究」
盛岡医療福祉専門学校

「高濃度酸素吸入時の「計算力」「記憶力」機能」
東日本医療専門学校

「神経筋電気刺激療法（EMS）とストレッチボード（SB）を用いた腓腹筋の形態的変化の観察」
福島医療専門学校

「種目別スポーツ外傷とその代表疾患」
仙台医健専門学校

第4回 宮城県「柔道整復学」構築学会

理学療法体験会　～模擬整・接骨院～

医療機器等展示

第4回宮城県「柔道整復学」構築学会を振り返り、2, 3の点を考える

学会名誉副会長・前「学」構築研究委員会特別顧問
佐藤　　　揵

一．はじめに

去る六月二十日、仙台国際センターにおいて、本学会が盛大に催された。県内外の関係者や、公開プログラムへの一般市民の参加もあり、閉鎖性を排除しようとする豊嶋会長以下の姿勢がよく現れていた。

全てのセッションに参加できたわけではないので、筆者の偏った印象になるかもしれないが、気づいたことを二、三振り返りつつ論じてみたい。

およそのところ、医学系の学会のプログラムは総会、特別講演（目玉）（含む教育講演）、シンポジウム（含むプロジェクト報告）、一般会員演題、（機器展示）などから成ることが多い。その点では本学会も立派に医学会的体裁を成していたといえる。加えて本学会ならではの特徴が、⑴養成学校の教員を巻き込んだ学生の発表「若者たちへの将来への知的好奇心培養と指導教員側の取り組み姿勢の顕在化」と、⑵市、県民へのfirst aid 実技講習会「防災的関心向上の底辺拡大」にあるといえよう。

二．会員研究発表

本学会のねらいはあくまでも、実のところ、社団の会員を中心とする柔道整復師の方々における臨床的知的財産の科学化と、それを検討することによって得られる業務への他者による正当な客観的feedbackにあるといえる。その点からみると、今回会員の発表が五題しかなかったのは、内容がとても面白かっただけに、すこぶる残念である。臨床家は必ず自己の経験した貴重な症例を持っているはずである。どうか未完でも、まとまらなくてもいいので、ケースレポートを手始めに演題を出されるよう希望する。（まとめたり発表したりする仕方については宮整広報、第八十五号、p66－68、２００９に載せてあるので、これを参考にされたい。）

三つお願いがある。①御本人たちにしか分からない用語（概念）を勝手に作らないようにしていただきた

い。②得られた結果は事実のみであり、それを思い込みで解釈すると、「主観的考察」になるので、両者の混同はさけていただきたい。③文献的な比較検討（「客観的考察」）は、今ではインターネットで便利に検索利用できるので、是非取り入れていただきたい。

三．特別講演

　中原英臣学長、伊達泰宗当主のお話は、それぞれのお立場での蘊蓄を傾けた内容であり、一般市民受けをする予測どおり、どちらかというと非会員の市民の方々に好評ではなかったかとの印象を持った。

　中原先生の辛口のお話のうち、日本人は年々生活習慣的不健康になっている、後手に回る国の医療政策、災いの元テレビの不正確な情報の垂れ流し、正常値の嘘が疾病を増やしている、などは実に分かりやすい標語的キーフレイズであったと思う。

　伊達十八代当主の、実に殿さま然とした、淀みと無駄のない、ゆったり流れるような語り口には大変感心させられた。正宗公のあまり知られざる姿への推量は興味あるものであった。

四．シンポジウム関係

　ここには①介護の問題と②「学」構築研究委員会中間報告を含めたい。①介護支援分野に参入し種々試行している、夏坂氏を中心とするグループの実際的取り組みの開示に敬意を表したい。

　②構築研究委員会の活動については筆者も特別顧問として設立以来関わってきたが、今回で第三次の中間報告となった。(い)柔道整復の分野における測定評価診断法の客観化の問題と、(ろ)コミュニケーションの共通性の問題が、柔道整復業務の認知度向上と対社会的評価につながるとの長期的見通しのもと、一地方組織のプロジェクトとしては大きすぎるテーマではあるが、上泉前会長の趣意を尊重し取り組んできた。本来、職人（臨床家）に必ずしも「学」は必要ではない。しかし現在、大学も出来、他の養成学校も増え、臨床家も増えるとなると、野放しでいいというわけにはいくまい。医療界で生き残るためにむしろ術を学にする試みは今必要である。

　今回の報告は結論ではない。むしろ次に続けるための論点提示的色合いであった。各報告担当委員の持ち時間が少なかったので、十分会員諸氏に趣旨が伝わったかが懸念される。一つ分かったことは、疾患の重症度の判断についての簡便な共通スケールを作ろうとすることは、治療効果判定スケールを作ることよりも難しいということである。

五．養成学校学生の研究発表

　今回は県外の二校を含め、計六校よりそれぞれ面白い発想のテーマの発表があった。「はじめに」に述べたとおりであるが、このセッションが盛んになり向上し、逆に会員研究発表がダウンするのでは困る。会員諸氏には若者ら（と指導者）の意気

込みをどう受け取っていただいたであろうか。

六．学会誌（含むプログラム、抄録）について

本学会会則によれば、①学術講演会を開催し、②学会誌を発行することが役目のうちの二つになっている。従来、②は①のときに公にされる③プログラム・抄録集をもって、それに代えてきたようであるが、第二回までは③は②のレベルに必ずしも成りえているとはいい難かった。しかし、今回の③は初めて②のレベルに達した中身の濃いものになったといえる。とくに現場の経験をもとにした臨床家ならではの「原著論文」が掲載されていることは、柔道整復「学」へ一歩近づいたものと考えられる。斯界の一地方学会のレベルを十分超えていると判断される報告が今回は多く、宮城県「柔道整復学」構築学会および宮城県柔道整復師会の新しい科学的知的財産が増えることとなろう。これらが業務に間接的によい効果をもたらさないはずはない。

七．おわりに

筆者が専門とする（スポーツ）リハビリテーション医学の分野などは、歴史も浅く他領域の知見を借用しつつ、しかしまだ医療従事者の経験と勘と米国頼みとマスコミ便乗となっている部分が多い。それだけに関係者は必死に科学性を確立しようと頑張っている。

柔道整復術のように長い歴史と伝統をもつ分野であれば尚のこと、社会的、医療経済的、健康科学的評価の向上をめざして地道に取り組むことが求められよう。今回の第四回学会はその意味で、地方からの十分な起爆剤になったものと考えられる。

豊嶋会長以下、実行委員会、事務局の方々の労に謝意を表する。

（2010．7．20）

「第32回東北ブロック柔道大会」並びに「第20回東北少年柔道大会」開催される

平成二十二年七月十日㈯、福島県郡山市西部第二体育館において、第三十二回東北ブロック柔道大会、第二十回東北少年柔道大会が、初夏の晴天の中、盛大に行われました。

少年柔道大会では、宮城県代表の八木山柔道愛好会と柔心館北岡道場が参加、熱戦を繰り広げました。

八木山柔道愛好会は、予選リーグ戦において善戦むなしく敗退、柔心館は予選リーグを見事に突破するも、トーナメント戦においてあと一歩及ばず、第三位に入賞されました。

一般の部では、当会より佐藤昭彦会員と渡邊利康会員が、三十歳代の部に参加。佐藤昭彦会員は、各県の強豪選手のいる中、一回戦より決勝戦までオール一本勝ちという快挙を成し遂げられ、見事優勝を飾りました。

佐藤会員は、厚生労働大臣杯争奪第三十四回日整全国柔道大会、三十歳代の代表として選抜されました。宮城県の代表として、東北の誇りをかけ好成績を収めて頂きますことを、心から願って止みません。

三十度を超える暑さの体育館の中で、大汗をかきながら宮城県代表として熱戦を繰り広げた、八木山柔道愛好会、柔心館北岡道場の選手並びに佐藤会員、渡邊会員のご健闘とご活躍に衷心より敬意を表します。本当にお疲れ様でした。

事業部

社団法人日本柔道整復師会

第33回東北学会福島大会
第54回東北ブロック福島県大会　参加報告

例年の標記大会が、本年は平成二十二年七月十日(土)、十一日(日)の二日間にわたり、福島県郡山市郡山ビューホテルアネックスにおいて開催されました。

当県柔道整復師会につきましては、一昨年まで休会しておりましたので、昨年の山形県大会より参加を再開いたしましたが、諸々の日程の都合上、研究発表や実技発表へのエントリーは間に合いませんでしたので、そういった面も含めての実質的な参加は、この福島県大会からとなりました。

当県柔道整復師会からの学術発表参加は久しぶりということもあり、各県柔道整復師会様よりある面ご注目もいただいいておりましたので、当県柔道整復師会にも従来とはまた一味違ったプレッシャーもありましたが、実技発表では亀井啓会員、研究発表では岩佐和之会員という当県柔道整復師会の学術を代表する両ベテラン会員によりますすばらしい発表によって、大変華々しい参加再会を果たさせていただくことができました。

亀井啓会員、岩佐和之会員におかれましては、ご多忙の中、発表準備をはじめ当日に至るまで本当にお疲れ様でした。両会員の今後益々の研究活動をご期待申し上げますと共に、当会全会員が両会員に続いて積極的に研究発表活動を展開、エントリーなされますことをご祈念いたしまして、福島県大会への参加報告とさせていただきます。

七月十日(土)　実技発表

亀井啓会員

「伸縮テープを用いた固定法の再考~足関節・肩鎖関節を例として~」

七月十一日(日)　研究発表

岩佐和之会員

「~ A case report ~ 陳旧性足関節外側捻挫」

学術部

SVMの活動と取り組み

平成二十一年度「(臨時) 地域代表会議」

SVM幹事長　新井田　一吏

平成二十二年三月十四日(日)、第二回通常総会後に「(臨時) 地域代表会議」が開催されました。「公益法人としての役割を担うべく大事な会議の一つである」との会長のあいさつに一層身の引き締まる思いから始まった会議です。

まずは、「介護予防運動教室」を会員それぞれの接骨院を会場にして同じ日に一斉に(同じ日に) 行う件についての話し合いを、桜田理事の説明のもと始めました。通常総会で「公益目的」にも挙げられた通り、介護保険関連の事業を行い県民の健康増進に努める目的を果たすことに沿う内容です。更に、養成校が急増し接骨院数が増え各院の療養費が減りつつある現状においては、介護事業に対する情報と研修を充実させ、会員の収入アップにもつながる、一石二鳥の取り組みであると思われます。しかし単に見様見真似で実行すれば良いわけではなく、会員一人ひとりが勉強をしたうえで運動処方・実施・評価をしないことには、真の「介護予防教室」にならないと思います。これらを実施するため、マニュアル作成、各市町村へ訪問、等々今後のスケジュールが話し合われました。

二つ目に「子供とお年寄りの避難所」の関係機関訪問について話し合われました。地域ごとに各署と協定を結んでから三年が経ち、協定が風化することを避けるために再度各署に訪問してご挨拶に出向くとのことでした。実際に一件、接骨院に出没した不審者に対応した報告がありましたので、会員の意識の確認のためにも必要なことだと思います。

その他、青葉区で防災についての各ボランティア団体報告会に参加したことや、ボランティア活動の時に使用する腕章や車に張り付けるマグネット式看板の確認をしました。

今後、公益法人としての責任の重さに襟を正さなければと思いながら臨んだ会議でした。今後とも地域代表の方々並びに会員の皆様には、ご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

平成二十二年度第一回SVM地域代表会議

SVM幹事長　新井田　一吏

去る五月二十三日、フォレスト仙台会議室において「第一回SVM地域代表会議」が開催されました。今回も通常総会に引き続いて開催され、各地域代表の先生方におかれましては、大変ご苦労様でした。

今回の議題は、一．健康いきいき運動教室について　二．「子供とお年寄りの避難所」警察署への再度訪問について　三．地域活動の実施について　の議題について話し合いや意見交換が行われました。

一については、仙台市内・仙北・仙南の三会場での開催することとなり、各地域とも開催場所に積極的に立候補していただきまして、スムーズに具体的な開催場所が決まりました。担当された地域代表の先生のみが一手に仕事を引き受けるのではなく、近隣の地域代表を中心に多くの会員の協力で成功させていただきたいと思います。

二については、「子供とお年寄りの避難所に関する協定書」を県内警察各署と締結してから三年が経ちました。各署とも署長や担当の署員の交代があって締結が忘れられたり、当会員の意識が薄れているのではとの懸念もあり、地域代表が今年度中に再度各署を訪問しご挨拶をして頂くことになりました。

三については、青葉祭りの救護活動の報告がなされました。活動の宣伝の仕方や活動内容についての反省点や改善の意見がたくさん出ました。

各地域代表におかれましては、今年度もたくさんの当会の事業にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

青葉まつり救護ボランティア活動報告

青葉地域・太白地域活動　斎藤整骨院　齊藤　拓幸

若葉萌える去る五月十五日(土)・十六日(日)、第二十五回仙台青葉まつりが盛大に開催され、今回で四回目となる青葉まつり救護ボランティア活動が行われました。

例年と比べ私の不手際で説明会と準備が遅れ、協力して頂いた会員・準会員の先生方には大変ご迷惑をお掛けしたのではと心苦しく思っております。ただ、参加された先生方は三回目、四回目と経験されていたのでトラブルもなく密に連絡、連携をとりながら和気あいあいの中活動された様なのでホッと安心しています。本当に参加して頂いた各先生、ありがとうございました。

天候にも恵まれ、暑すぎず、寒すぎず、一万人近くのお祭り参加者と例年を上回る九十三万人の観光客！

あちらこちらで粋なお囃子と華を咲かせるすずめ踊り！町中がお祭り一色！救護活動を忘れるぐらい楽しいひと時でした。

開始直後に路上で倒れ、顔面部より出血された方が一名！車椅子を運び現場に直行！その場で止血し、その後救護テントに移動させ日赤さんの迅速な対応で念のために救急車で病院に搬送しました。お祭りスタッフの素早い連絡！と当会会員の外傷の処置！日赤さんのその後の対応！と見事な連携プレーだったのではと感心させられました。

その後は骨折の疑いのある方が一名、その他は軽傷の利用者が数名いた程度で無事、救護活動を終えることができました。

本当に皆様、お疲れ様でした。

さて、今回初めてだったのが、ＡＥＤの持ち出し。青葉まつり実行委員会からの要望で、急遽ボランティアブースに設置することになりました。ＡＥＤといえば、もう一般的には各公共施設やデパート、屋外競技場などにも常備されており、持っていかなくても?という意見もありましたが、お祭りの会場はというと、公園や一般道、そして街中の広場！ある訳ないですねぇ！

今後のボランティア活動でも事前に会場状況を把握していなければならないですね。本来なら大会委員や実行委員の方で準備するものなのでしょうが、せっかく会で持っているのなら安心・安全のＰＲにもなるのでは？

そんな中で日赤看護師さんとのやり取り。
「AEDを使った事、ありますか?」
「いや、まだないですねぇ…」
「実際、その状況になったらできますかねぇ?」
「できれば…分からないです…」
　救命救急やAEDの講習も何度か受け、音声で案内してくれるのですが、実際にその場に居合わせたらできるでしょうか?
　今までなら外傷の応急処置をメインに行っていましたが、今後は幅広く診ていかなければと責任感や使命感のほか不安や重圧感を感じました。
　何はともあれ、青葉まつりの救護ボランティア活動はSVM活動が初めての方には気軽に参加できる数少ない依頼です。地域の皆様との触れ合いやお手伝いができ、各地域の先生方とのコミュニケーションも楽しいですよ!
　来年はもっと、もっと求められる!そして応えられるSVM地域活動にしていきたいものですねぇ!

「泉区安全安心街づくり」活動の合同ナイトパトロールへの参加について

仙台泉地域代表世話人　**小野郁生**

　SVMボランティア宮城「子供とお年寄りの避難所」、仙台泉地域活動として、「泉区安全安心街づくり」合同ナイトパトロールに、参加した内容を報告致します。参加された会員の方々におかれましては本当に心

より感謝申し上げます。

さて、七月二十八日㈬泉警察署三階に、泉区安全安心街づくり推進協議会・泉区防犯協会連合会・泉中央地区防犯協会・泉地区警備業・警察防犯連絡協議会・泉青年会議所・七北田中学校区地域ぐるみ生徒指導推進協議会・宮城県柔道整復師会仙台泉地域・泉区役所・泉警察署、各機関・団体（総勢六十名）が集結し、当会参加者（一班）大坂武史理事、上野肇二会員、（二班）岩崎弥太郎会員、世話人小野郁生会員、（三班）鈴木盛登会員、志小田正人会員、ＳＶＭで作成した腕章を付け、泉区長、防犯協会連合会長、泉警察署長、各機関・団体の代表者紹介あいさつの後、生活安全課長の指導に従い各三班に別れ、泉中央駅周辺、七北田公園、泉中央すずらん通り周辺と泉警察署員を先頭に防犯啓発のチラシを配りながらパトロール、約一時間程度で解散しました。

泉地区は、空き巣等の侵入犯罪、自転車盗難、車上ねらい等の市民生活に直結する犯罪が日常的に発生しており、「自分たちの街は自分たちで守る」自主防犯意識を堅持し、各種防犯活動を積極的に推進され、「犯罪のない明るい街づくり」そして子供とお年寄りが安心し、生活できる街づくり活動に、貢献して参りたいと存じます。

最後に合同ナイトパトロールは、年二回開催されております。皆様のご参加ご協力をお願い申し上げます。

警察署と協定「子供とお年寄りの避難所」

SVM幹事長　**新井田　一吏**

平成十九年度に県内二十四署との「子供とお年寄りの避難所に関する協定書」を締結してから、早や三年が経ちました。当初、故上泉昌隆会長の「我々会員自らが地域に貢献するための事業」として発案され、締結に至りました。

これまで三年間の活動の中で、不審者から逃れてきた被害者の保護と共に警察へ通報した事例がありましたが、警察署に指導をいただいたとおりの対処で、特に被害が大きくなることもなく解決できた報告が一件ありました。県内三百六十名超の会員の活動の中で、三年間で一件の対処の報告は「少なくて良し」とするのではなく、逆に少ないがために我々会員の油断から「地域貢献」への心構えが薄れてくることも懸念され、更に各署との締結の事実も薄らいでいくことも考えられます。そこで現在、各地域代表が一年間をかけまして、県内二十四署を再度締結の確認とごあいさつの訪問に廻っているところです。改めて会員一人ひとりが地域の防犯・減災に対応して、子供とお年寄りが安心して生活できる街づくりに貢献できるように、締結当初の心構えをそれぞれ確認していただきたいと思います。

財団法人仙台市身体障害者福祉協会より感謝状受贈

平成二十二年七月二十二日㈫、仙台市の五橋福祉プラザ二階ふれあいホールにて、平成二十二年度仙台市障害者福祉大会が開催されました。この大会は、財団法人仙台市障害者福祉協会が主催し、協会に貢献のあった団体、個人を表彰しているもので、長年の継続的貢献に対して評価を頂いたものです。

接骨院ボランティア宮城発足以来、公益活動の一環として、福祉募金箱を会員の窓口に設置し、新年の慶賀に当たり毎年寄贈と共に各種スポーツ大会の救護等において、会員一丸となってサポートを行っているところです。

表彰式の際に財団法人仙台市社会福祉協会会長の阿部一彦先生から「いつも心からのご協力、本当にありがとうございます」の丁寧な挨拶を賜りましたことを申し添えておきます。

当会は、今後も変わらない活動を続けていきたいと思っています。

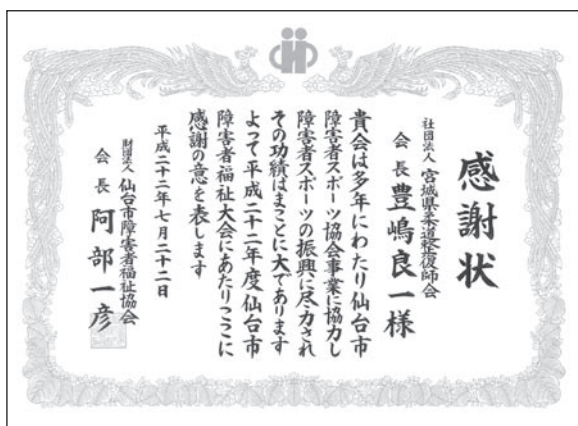
広報部

感謝状

社団法人 宮城県柔道整復師会
会長 豊嶋良一様

貴会は多年にわたり仙台市障害者スポーツ協会事業に協力し障害者スポーツの振興に尽力されその功績はまことに大でありますよって平成二十二年度仙台市障害者福祉大会にあたりここに感謝の意を表します

平成二十二年七月二十二日

財団法人 仙台市障害者福祉協会
会長 阿部一彦

「金色有功章」授与式

去る平成二十二年四月十二日、当会館三階会議室において日本赤十字社より「金色有功章」の授与式が執り行われました。

当会からは、豊嶋良一会長、大坂武史理事、舟山清美事務長が出席し、日本赤十字社宮城県支部から組織振興課長　加藤一廣氏、組織振興課主事　井上嘉秀氏の両名が出席され、加藤一廣課長から豊嶋良一会長へ「金色有功章」の盾が授与されました。授与式の挨拶の中で、協力体制の一層の強化が約束され、今後の災害時の活動や宮城県内の医療救護現場での円滑な活動が期待されます。

事業部

社団法人 宮城県柔道整復師会 様

日本赤十字社に対し多額の社資を寄せられ赤十字事業の進展に多大の貢献をされました

その御功労に対し感謝の意を表しここに金色有功章を贈ります

平成二十二年二月二十六日

日本赤十字社

「風見鶏」

猛暑と呼ばれた今年の夏も少し翳りを見せ、季節の移ろいを感じる様になってきた今日此の頃です。酷暑と言われ記録的な暑さが話題になり、ゲリラと呼ばれる集中豪雨や、竜巻なども起こりました。また、水不足が懸念され、野菜などの出来も心配されました。

事実、水が足りなくて枯れてしまった草や木、収穫量が落ちてしまった野菜など、自然の脅威を思わせる光量が、あちこちで見られました。しかし一方では、この天気の御蔭で、収穫量が増えた果物や、出来の良い西瓜やトマトなど、美味しく頂くことが出来、満更困った夏だけではない様でした。

野菜といえば、昔は八百屋さんで買うのが普通でした。それに少し虫食いがあったり、形や大きさが不揃いな物も多く混ざっていました。それが大型店舗となり、スーパーマーケットや、郊外型ショッピングタウンなど、規模が大きくなると同時に、品数も同じ形や大きさに揃えられるようになりました。そして消費者も綺麗で形の良い物を求める風潮が高まり、その要求に応える様に生産者も努力を重ねてきました。

また生産者から消費者に至る流通経路も、農業協同組合などを通じて出荷、市場や卸商などを仲介として小売店から消費者へ届くのが一般的でした。しかし、品物の量や質、単価など消費者ニーズとして取り上げられ、流通経路も見直す事により、選択肢を増やす結果となりました。

一方、消費者自身の好み、経済力、金銭感覚など、それぞれの環境や事情により購入方法や場所も多様化してきました。例えば、おなじみ道の駅など生産者が直接販売するもの。インターネットや宅配など流通経路を窓口として、カタログ、チラシ、冊子などの情報をもとにして購入する方法。趣味や嗜好など、専門店を選択する方法。スーパーマーケットやショッピングタウンなどの大型店を利用する方法などがあり、それぞれ良い所があります。

生産者から直接販売される場合、なんといっても作り手の顔が見え、なんとなく気持ちや心が伝わる様で、独特の優しい雰囲気と商品への責任を裏付けている様に思います。

情報をもとにして購入する場合は、自宅に居ながら注文し、買い物ができる利点は、様々な理由で買い物に出掛けられない人達の、制限された環境を回避する事ができます。また全国的な広い視野で選ぶことができたり、利用す

る時間も注文者の意思で進める事ができます。

趣味、嗜好で選ぶ場合も利用者の意思により、商品価値や付加価値の高い物を購入することができます。例えば、稀少だとか限定などの商品がほしい場合や、産地や種類、生産方法などの拘りが有る場合で、消費者もそれが品質への信頼となり、安心へと繋がっていきます。

大型店を利用する場合は、なによりも価格や品質が安定し、平均的に揃った品物を多数買うことができます。また合理化により価格を抑えたり、品質を向上させたりと、良い物をより安くという努力がある様です。そして生産者にも大量に買付けしてくれる大型店は生産計画や経営にも安定する材料となり、消費時期に合わせた作付けも可能となってきました。

野菜についていろいろと考えてきましたが、生産者、販売店、消費者とそれぞれが利用しやすい方法として多様化し、多彩な流通の形が生まれ、それぞれの特長が生かされていると思います。またどの方法でも、長所短所があると思いますが、需要と供給の間でそれぞれが必要とされ、存在している訳です。どれが良い悪いではなく、それぞれが価値有る方法なのだと考えます。

私達の業界も数を増やす一方です。其れ故それぞれが自身の特長を知り、生かすことで、利用の形も増やすことが出来ると思います。まわりを見て動揺する事はありません、自分を観てやり方を選び自分らしい方法を貫くことだと思います。

広報ワーキンググループ

—— 意見・提言・趣味 ——

—考え、思いつき、感想、提案、会員生の声—

あなたのご意見をお聞かせください。

■意見を出さず、体制に追随してはいませんか。
■意見を言わず、諦めてはいませんか。宮城県柔道整復師会は、あなたの社団です。
■誰かがやるだろう、誰かが切り開いてくれると思っていませんか。
■一人の意見が、大きな舵取りになることもあります。
　あなたは、㈳宮城県柔道整復師会の会員です。
■どんなことでも結構です、あなたの意見、希望、疑問、情報、なんでもお知らせください。

○投稿　○電話　○FAX　○インタビューにうかがいます。

どんな方法でも結構です、一歩前へ！

SVM活動状況

（平成21年12月1日～平成22年8月31日迄）

依頼団体名	日時	合計
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5/23	2
宮城県柔道連盟	5/29	1
宮城県柔道連盟	5/30	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5/30	3
仙台市障害者スポーツ協会	5/30	2
石巻地区中学校体育連盟	5/30	2
仙台市障害者スポーツ協会	5/30	1
宮城県警察本部	6/3	2
宮城県高等学校体育連盟	6/5～7	6
気仙沼市	6/6	4
名取市中学校体育連盟	6/12～13	3
名取市中学校体育連盟	6/12	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6/12	1
仙台市中学校柔道専門部	6/12～13	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6/13	2
岩沼市体育協会	6/13	1
名取市中学校体育連盟	6/13	3
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6/20	2
気仙沼柔道協会	6/20	3
宮城県相撲連盟	6/20	1
栗原市スポーツ少年団協議会	6/20	1
村田町父母教師会連合会	6/27	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	6/27	2
気仙沼市PTA連合会	6/27	1
仙南地区柔道スポーツ少年団協議会	6/27	2
塩釜市父母教師会連合会	7/4	2
気仙沼市空手道連盟	7/4	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7/4	3
山下旗柔道大会実行員会	7/4	3
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7/11	2
宮城県相撲連盟	7/11	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	7/18	3
塩竈剣道連盟	7/18	1
宮城県障害者スポーツ協会	7/18	1
塩釜市テニス協会	7/18	2
気仙沼柔道協会	7/19	1
名取市卓球協会	7/25	1
宮城県中学校体育連盟柔道専門部	7/22～24	3
気仙沼市教育委員会唐桑教育センター	7/25	1
なかのFC	7/24～25	2
泉警察署	7/28	6
東北中学校体育連盟	8/6	2
宮城県中学校体育連盟柔道専門部	8/7	1
塩釜市青年会議所	8/8	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	8/8	1
仙台市柔道スポーツ少年団協議会	8/15	1
宮城県柔道スポーツ少年団協議会	8/22	1
宮城ヘルシー 2010ふるさとスポーツ祭 登米地区大会実行委員会	8/22	2
宮城ヘルシー 2010ふるさとスポーツ祭 南三陸事務所管内大会実行委員会	8/22	3
スペシャルオリンピックス日本・宮城	8/22	1
石巻柔道協会	8/29	2

依頼団体名	日時	合計
東北福祉大学ハンディアドバンスチーム	12/6	1
石巻柔道協会	12/6	2
仙台中央警察署協議会	12/8	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	1/17	1
宮城県柔道連盟	1/23	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	1/24	1
仙台市障害者スポーツ協会	1/24	1
ベガルタ仙台	1/28	1
気仙沼・本吉地区中学校体育連盟	1/31	1
宮城県柔道連盟	1/31	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/6	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/7	1
女川町	2/13	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/13	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/14	1
仙台中央警察署協議会	2/17	1
東北柔道専門学校OB会	2/20	1
宮城県中学校体育連盟柔道専門部	2/20	2
仙台けやきライオンズクラブ	2/21	3
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/21	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	2/27	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/6	1
泉区スポーツ少年団	3/6	1
塩竈剣道連盟	3/7	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/7	1
石巻市スポーツ少年団	3/7	3
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/13	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/14	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/20	1
宮城県テコンドー協会	3/21	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	3/21	1
名取市卓球協会	3/28	1
石巻柔道協会	3/28	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/4	1
仙台市中学校柔道専門部	4/10	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/11	1
仙台市障害者スポーツ協会	4/11	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/11	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/18	1
塩釜市バレーボール協会	4/18	2
石巻市ライオンズクラブ・石巻柔道協会・ 石巻地区柔道スポーツ少年団	4/18	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/25	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	4/29	1
七郷柔道愛好会	4/29	2
大崎柔道協会	5/2	2
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5/9	2
宮城県高体連石巻支部柔道専門部	5/9	1
気仙沼リトルシニア野球協会	5/15～16	2
気仙沼市立白山小学校	5/16	1
気仙沼市立浦島小学校	5/16	1
スペシャルオリンピックス日本・宮城	5/16	1
仙台青葉まつり	5/15～16	9
宮城県柔道連盟	5/22	1

平成21年12月～平成22年8月　会務報告

2　月			22年　1　月			21年　12　月		
1	月		1	金		1	火	
2	火		2	土		2	水	
3	水		3	日		3	木	新入会員面接
4	木		4	月	仙台市新年祝賀会	4	金	
5	金	月初送金日	5	火	県医師会新年会　事務局仕事始め 事業部会	5	土	構築研究委員会
6	土	申請書締切　保険勉強会	6	水	月初送金日・申請書締切 保険勉強会	6	日	申請書締切　柔整スクール一般 日整IT会議
7	日		7	木	仙台市医師会新年会	7	月	月初送金日 保険勉強会　事業部会
8	月		8	金	新入会員面接	8	火	
9	火	構築学会会議	9	土	構築研究委員会	9	水	
10	水		10	日	Ｈ２１年新年会 スクール特別講演	10	木	水野先生を囲む会
11	木		11	月		11	金	柔整スクール一般 全国共済農業協同組合連合会連絡会議
12	金		12	火		12	土	地域別保険研修･SVM合同懇談会（石巻）
13	土	構築研究委員会	13	水	公益法人に向けての打合せ	13	日	
14	日		14	木	県提出日 保険徴収証明書発行	14	月	県提出日 新年会に関する打合せ
15	月	県提出日　広報ワーキング	15	金	審査委員会	15	火	審査委員会 統合医療
16	火	審査委員会	16	土	地域別保険研修補講	16	水	会計精査
17	水	柔整スクール必修・一般	17	日		17	木	日整生涯学習委員会
18	木	三役会・理事会⑤・監査会・講評	18	月		18	金	三役会　理事会⑤評議委員会②
19	金		19	火		19	土	地域別保険研修・SVM 合同懇談会(栗原)
20	土		20	水	柔整スクール一般	20	日	
21	日		21	木		21	月	「政治資金規正法に関する」説明会
22	月		22	金	会計精査	22	火	
23	火	公益準備会	23	土	ブロック第5回理事会	23	水	
24	水	政治資金収支報告	24	日	ブロック第5回理事会	24	木	
25	木	事業部会・保険部会	25	月		25	金	学術部打合せ 保険関係挨拶回り
26	金	月末送金・連絡袋発送 柔整スクール一般	26	火	学術部会	26	土	保険部会
27	土	桜井議員後援会新年会	27	水		27	日	
28	日		28	木	保険部会	28	月	連絡袋発送 AED納品
			29	金	月末送金・連絡袋発送	29	火	月末送金 事務局仕事納め
			30	土	機能訓練指導員 認定講習会	30	水	
			31	日	機能訓練指導員 認定講習会	31	木	

５　月			４　月			３　月		
1	土		1	木	事業部会	1	月	
2	日		2	金	新入会員面接 新規評議員加入打合	2	火	第7回理事会
3	祝月		3	土	ブロック第1回理事会	3	水	
4	祝火		4	日	健生学園入学式	4	木	
5	祝水		5	月	月初送金日　仙台医健入学式、赤門入学式、公益移行作業	5	金	月初送金日 介護保険委員会　評議委員会
6	木	申請書提出締切日	6	火	申請書提出締切日 公益移行作業　新入会員面接	6	土	申請書締切　保険勉強会
7	金	月初送金・保険勉強会 新公益法人制度説明会	7	水	保険勉強会	7	日	
8	土		8	木	学術ブロック担当会議in日整　東北柔専入学式　柔整スクール（関節オペ）	8	月	
9	日		9	金		9	火	柔整スクール（関節オペ）
10	月	保険者表敬訪問	10	土	統合医療学会東北支部総会	10	水	
11	火	新入会員面接	11	日		11	木	日整生涯学習委員会　赤門・医健卒業式　柔整スクール（関節オペ）
12	水	介護保険委員会	12	月	赤十字社より感謝状贈呈	12	金	
13	木	柔道整復療養費審査委員会 構築研究委員会	13	火	新入会員面接	13	土	柔専、健生卒業式
14	金	広報部会	14	水	柔道整復療養費審査委員会	14	日	H21度通常総会 SVM地域代表者会議
15	土		15	木	柔整スクール（関節オペ）	15	月	県提出日
16	日		16	金		16	火	審査委員会 柔整スクール（関節オペ）
17	月		17	土	構築研究委員会	17	水	新入会員面接
18	火	県医療整備課（公益申請）	18	日		18	木	柔整スクール（関節オペ）
19	水		19	月		19	金	日整全国会長会
20	木	事業部会	20	火	柔整スクール（関節オペ） 新入会員面接	20	土	構築研究委員会
21	金		21	水	①三役会・理事会・監査会	21	日	
22	土		22	木		22	月	
23	日	22年第1回通常総会　SVM地域代表会議　宮城学術認定委員会	23	金		23	火	柔整スクール（関節オペ）
24	月		24	土	ブロック学術担当者会議	24	水	新入会員面接
25	火		25	日	第19回日整少年柔道大会	25	木	柔整スクール（関節オペ）
26	水	三役会 学術関係懇談会	26	月		26	金	会計精査
27	木		27	火	柔整スクール（関節オペ）	27	土	
28	金	保険部会　　総務部会	28	水	保険部会	28	日	日整臨時代議員臨時総会
29	土	ブロック第2回理事会	29	祝木		29	月	保険部会
30	日	東京都役員来仙	30	金	県保健福祉部長との懇談会 送金、連絡袋発送	30	火	
31	月	送金、連絡袋発送				31	水	月末送金・連絡袋発送

8　月			7　月			6　月		
1	日	全国介護保険担当者会議	1	木		1	火	
2	月	健保連宮城新会長表敬訪問	2	金		2	水	
3	火		3	土	構築研究委員会	3	木	臨時理事会
4	水	柔整スクール一般	4	日	ブロック柔道選手練習会	4	金	大崎地域支援事業所訪問
5	木	月初送金日	5	月	月初送金日 学術部会	5	土	
6	金	申請書提出締切日	6	火	申請書提出締切日 保険勉強会	6	日	申請書提出締切日 全国保険部長会議
7	土	保険勉強会 介護保険委員会	7	水	柔整スクール一般	7	月	月初送金日　保険勉強会
8	日	神奈川県斎川先生受章祝賀会	8	木	損保ジャパン担当者との面談	8	火	保険者表敬訪問
9	月	認知症関連打合せ	9	金	ブロック第3回理事会	9	水	
10	火	新入会員面接	10	土	ブロック柔道・学術大会in福島	10	木	構築実行委員会担当長会議
11	水		11	日	ブロック学術大会in福島	11	金	
12	木		12	月		12	土	構築学会関連業務
13	金		13	火	新入会員面接	13	日	日整代議委員会・日整通常総会
14	土		14	水	柔道整復療養費審査委員会	14	月	構築関連業務 医療整備課（公益申請）
15	日		15	木		15	火	柔道整復療養費審査委員会 構築学会関連業務
16	月		16	金		16	水	
17	火	柔道整復療養費審査委員会	17	土		17	木	
18	水		18	日		18	金	
19	木		19	祝月		19	土	構築学会前準備
20	金		20	火		20	日	第4回「柔道整復学」構築学会
21	土	社団設立35周年式典　岩手県	21	水	H23日整東北学会 宮城大会打合せ	21	月	
22	日	〃	22	木	感謝状（身体障害者福祉協会）	22	火	新入会員面接
23	月		23	金	三役会・理事会・監査会	23	水	広報部会
24	火		24	土	日整北海道学会	24	木	構築研究委員会
25	水		25	日	日整北海道学会	25	金	
26	木	協同組合検討会	26	月		26	土	介護保険委員会
27	金		27	火	新入会員面接　広報部会	27	日	
28	土	第4回大阪学会前夜祭	28	水	顧問弁護士打合せ	28	月	構築学会報告会
29	日	第4回大阪学会前夜祭	29	木	保険部会	29	火	
30	月	保険部会	30	金	送金、連絡袋発送　選挙規定検討会　協同組合検討会	30	水	送金、連絡袋発送
31	火	送金、連絡袋発送	31	土	接骨医学会新役員会議			

宮城県「柔道整復学」構築学会　賛助会員

株式会社　エス・エス・ビー

株式会社　カナケン

株式会社　グローバー

日本プロジェクト　株式会社

株式会社　メディカルプランニング

燦ケアサービス　株式会社

株式会社　パールシャープ仙台

マクターエンジニアリング　株式会社

株式会社　エフ・アイ・エル

ダイヤ工業　株式会社

朝日電子東北販売　株式会社

宮城県「柔道整復学」構築学会の活動をご理解頂き、学会を支えて頂く賛助会員各社でございます。

宮城県「柔道整復学」構築学会は、会員の皆様が、レセプトシステム・超音波診断装置・医療機器・衛生材料・医薬品のご用命の際には、宮城県「柔道整復学」構築学会として、賛助会員各社を会員の皆様に推奨致します。

宮城県「柔道整復学」構築学会推奨

宮城県「柔道整復学」構築学会　投稿・発表規定

2008年（平成20年）11月8日制定

1. 投稿・発表について

本学会への投稿及び発表は、原則として宮城県「柔道整復学」構築学会の会員に限るが、特に本会に寄与する論文と判断され、本会の会員が1名以上の共著者となっていれば会員外の投稿及び発表も受理します。

以下の6つのポイント（約束事、常識）をふまえて、しかも積極的に、気軽にどうぞ公にして下さい。

1997年（平成9年）、第6回日本柔道整復接骨医学会総会時の、金城　孝治会長の講演にありました言葉、「職域拡大には・・・医療知識と技術の向上によってのみ可能である」は、今こそむしろ大切かと思います。

2. ケースレポートの仕方

①　ケースレポートをする意義は；

ｉ）非常にめずらしい（レアrare）疾患の場合

ⅱ）めずらしい疾患ではないが、特異な経過・転帰をたどったケース

ⅲ）治療・施術への反応が独特であったケース

ⅳ）新治療法・技術の開発・試行・実験治療を行ってみた場合の効果

ｖ）非常に、取り扱いや施術・治療・リハビリに苦慮したケース

②　どこの誰であるかが推定できそうな表現は絶対不可（個人情報保護）です。
症例1、症例2などとします。

③　この場合も、症例のデータ（写真など）について、自分（達）のものでない場合には、借用先を明記して下さい。

3. データのまとめ方

①　X線、MRI、その他全てのデータについて、自分（達）が採取したものでない場合には、借用先を明記して下さい。（著作権の問題）

②　データの計数が1ケタ（5例、8例など）の場合に、安易に平均値（代表値の1つ）を出しますと片寄った値になることがあります。その場合には中央値の方が妥当です。

③　各症例について、誰であるか見当がつきそうな表現はなさらないように（個人情報保護）して下さい。
表記は、例えば症例1、症例YZなど。

4. 発表要旨（抄録）の書き方

①　5W1H（whenいつ、whereどこで、who誰が、what何を、whyどんな目的で、howどのように）が分かるように書いて下さい。

②　＜目的＞＜方法＞＜結果＞＜考察＞＜結論＞の順に、要領よく短くまとめます。＜結果＞には、得られた事実のみを書きます。

③　文章は全て「～であった」「～となった」の、である調、過去形となります。

④　発表者としての主語を入れる必要がある場合には、「われわれは～」「演者らは～」などと書きます。
⑤　原稿は、パソコンのワープロソフトなどで作成し、A4版用紙に横書きとします。手書原稿は採用しません。

5. 執筆要綱

投稿論文の種類と内容説明

原著論文　：　新規かつオリジナルであることが構築研究委員会において認められたものです。
内容が新しい情報、理論の提示を通して独創性を主張できるものです。
明確な研究結果として一定の結論が得られたものです。
研究報告　：　独創性を問うものではないが、特に柔道整復分野において有用、かつ意義があるものです。
症例報告　：　症例の臨床経験に基づいた研究をおこなって考察が得られたものです。
研究資料　：　柔道整復、あるいはそれに関連した資料を主とした情報を提示したものです。
短　　報　：　内容は原著に近いが短く結論の速報として書いたものです。
治療技術　：　客観的情報を示し、オリジナル性の高いものです。
そ の 他　：　柔道整復に関する多方面からの記事を含み、会員の質的向上に貢献できるものです。

6. 論文の構成

表　　題　：　内容を具体的に表し、かつ簡潔な表現とします。
用語には、キーワードを含むように工夫して下さい。
著 者 名　：　著者は本研究に寄与するところの大きい人のみとします。
研究の協力者は謝辞の中で記載して下さい。
要　　旨　：　目的、方法、結果、結論を簡潔に記載して下さい。
キーワード　：　主に主題および要旨から選び、論文の内容を最も適切に表す言葉とします。
本　　文　：　1) はじめに（序文、まえがき、緒言）
本研究の背景、経緯、意義などを述べる導入部分。
これまでの研究との関連性を記載します。
2) 対象および方法
用いた理論、条件、材料、方法、手順などを記載します。
特に、方法は関連研究者が追試できる内容とします。
3) 結果
実験結果、データ紹介、明らかとなった関連性、観察結果、効果などを記載します。
4) 考察
結果の分析と検討、結果の比較と評価、問題提起、今後の課題、示唆などを記載します。
5) 結論（まとめ、結語）
本研究の結果内容を簡潔に記載します。
図･写真･表　：　本文に示した順に掲載し、その図表の番号や説明は図では下に、表では上につけて下さい。
そ の 他　：　原稿には一連のページ数を記載して下さい。

7. 発表の仕方

① パワーポイント、スライドなど、視聴覚メディアをうまくお使い下さい。
② 発表時間の厳守
例） 8分間→400字詰原稿用紙8～9枚
10分間→400字詰原稿用紙10～11枚です。
③ 慣れていない方は、必ず発表用の下書き原稿を②に合わせて書くことをお勧めします。ルーズに進めると、必ず結論へ行かない前に終わってしまいます。
④ ここでも5W1Hを要領よく入れて下さい。

8. 提出

発表原稿、発表時使用データの提出は、所定の期日までに刷り上り（プリント）1部に、原稿のファイルを書き込んだ電子媒体（フロッピーディスク、CD-R、USBなど）を添えて、事務局宛に送付して下さい。又は、E-mailで事務局宛にファイルを直送して頂いても構いません。
但し、使用ソフトやファイル形式については、事前に受理可能かどうか事務局に確認して下さい。
投稿原稿、発表時使用データ及び記録媒体は返却しません。

9. 校正

校正は著者が責任を持って行い、校正後の原稿、データを投稿して下さい。

10. 送付先

「学会誌原稿、発表データ」と朱書して、下記に送付下さい。

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉二丁目9番8号
社団法人宮城県柔道整復師会 内
宮城県「柔道整復学」構築研究委員会 事務局
TEL：022-262-9181 FAX：022-262-4181
E-mail：mjs@mjs.or.jp

編／集／後／記

本号では、今年度八月までの宮城県柔道整復師会の事業、取り組みを掲載いたしました。

それらの記事にお目通しいただきました時に、定例の事業に加えて、SVM活動が従前のスポーツ現場での医療救護に留まらず、地域のお祭りでの活動であったり、ナイトパトロールへの参加であったり…と実に細分化されて行われていることにお気づきになられたことと思いますが、この傾向や方向性は、今回の構築学会のテーマにもなりましたように、宮城県柔道整復師会が、一層地域に根ざしていこうとする、その表れということができます。

今年に入って、社会はますます混沌とした様相を呈し、療養費についてもまた改訂がなされました。このような時、私達は、何かにつけてこの局面を何とか乗り切ろう、改善しようと打開策を必死に模索し、新たな何かを見出そう、求めようといたします。しかしその一方で私達が気をつけねばならないのは、足元をすくわれないようにということではないでしょうか。画期的な策を検討する一方で、自分自身の足元を固め直してみることへ心を向けてみるのも大変大切であろうと思います。新しい患者様層を獲得する努力ばかりではなく、今、自分の目の前にいる患者様に対して果たしてより良い医療を提供できているのか、患者様の生活する地域に対して有益、有意義な存在となりえているのか等々、やっと暑さも翳り始めてきた秋の夜長に本誌を御一読いただきながら振り返ってみてはいかがでしょうか。

猛暑の毎日に蓄積された疲労が噴出しはじめる頃ですので、どうぞお体にお気をつけいただきまして、お互い学術研鑽を怠ることなく、自分の地域にしっかりと両足を踏ん張って、また明日からの施術に臨んでいきましょう!!

宮整広報　編集部

社団法人　宮城県柔道整復師会

宮 整 広 報 No.87

平成22年9月30日

〒980-0011 宮城県仙台市青葉区上杉二丁目9番8号
TEL 022(262)9181　FAX 022(262)4181
Home Page　http://www.mjs.or.jp

発行者　会長　豊嶋良一
編　集　広報部担当理事　亀井　啓　目時　誠
　　　　広報Working Group主任　庄子和良
委　員　佐藤敬一　平山　修　千葉勝弘

印刷所　(資) 芳賀美術印刷
〒980-0003
宮城県仙台市青葉区小田原七丁目7番13号
TEL 022(222)4225㈹　FAX 022(222)4228